

平成27年度分

行政評価結果報告書【別冊】

【施策評価票】

施策1～55

平成28年7月

印西市

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	環境講座・イベント等の開催回数	回	12
2	里山保全活動団体数	団体	11	↗ 13	↗ 11	↗ 11	↗ 確定後公表
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	市民団体による自然環境保全講座が増えてきている。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	市民団体数は横ばいであるが、活動内容は充実してきている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	今後もより良い企画の実施、市民団体の支援を継続する。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.92		3.40		生態系に配慮した自然環境の保全と活用
平成 25 年度	2.95	0.03	3.64	0.24	
平成 27 年度	3.01	0.06	3.60	0.04	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市が主催するイベント・講座等の他に市民団体が主催するイベント・講座等も増えており、自然環境保全の意識の向上が図られている。 今後は、市民団体が行う事業に対する支援を強化するとともに、これまで自然環境講座等にあまり参加してこなかった市民の関心が向くような魅力ある事業を企画検討していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市民1人あたりの都市公園面積	㎡	15.71	16.43	17.15	18.59	19.31
				15.22	16.04	16.69	17.14
				92.6%	93.5%	89.8%	88.8%
2	市民と協働で管理している公園数	箇所	18	20	24	26	28
				19	21	20	22
				95.0%	87.5%	76.9%	78.6%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	日常点検で不備のあった遊具を修繕した。公園美化活動団体への適切なサポートを実施した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標を達成することが出来、継続し進めていく。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	ほぼ計画通り目標を達成することが出来、継続して進めていく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.97		3.37		[項目名] 都市の中の緑の保全と創造
平成 25 年度	2.97	0.00	3.59	0.22	[項目名] 公園・緑地の整備・保全
平成 27 年度	3.04	0.07	3.60	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市民への調査結果において、前年度より重要度が上がっていることから公園・緑地に対する市民の関心が高いことが伺われる。公園の施設や遊具については老朽化が進み、修繕または更新の必要性が生じる施設が年々増加傾向にあるが、きれいで利用しやすい公園を維持するため適切な管理を実施することが必要である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	市民一人1日あたりのごみ排出量	g	872	850 895 95.0%
2	資源化率	%	22.5	23.0 20.7 90.0%	24.0 20.6 85.8%	25.0 20.3 81.2%	26.0 19.7 75.8%
3	合併処理浄化槽設置基数 (補助対象分累計)	基	2,688	2,980 2,968 99.6%	3,080 3,074 99.8%	3,150 3,167 100.5%	3,206 3,242 101.1%
4	太陽光発電システム設置件数 (補助対象分累計)	件	348	730 766 104.9%	890 984 110.6%	1,050 1,229 117.0%	1,200 1,443 120.3%

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	より実効性、効果的な施策を継続推進していく。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ごみの減量化・資源化については目標を達成できていないが、合併処理浄化槽、太陽光発電システムについては、計画以上の設置促進が進んでいる。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	中長期的な成果目標達成を目指し、事業を推進していく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.91		3.46		循環型社会の実現(リサイクル等)
平成 25 年度	2.76	0.15	3.64	0.18	
平成 27 年度	2.78	0.02	3.63	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	ごみの減量化・資源化については、社会経済情勢等の様々な要因により、ごみの排出量は変動していくため、できるだけ実効性のあるごみ減量施策等を継続して実施し、中長期先を見据えての事業推進が必要である。 合併処理浄化槽、住宅用省エネルギー設備等の補助事業については、計画以上の成果を上げており、今後も継続して設置を促進していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	ゴミゼロ運動参加団体数	団体	208	211 182 86.3%
2	クリーン印西推進運動参加団体数	団体	162	166 149 89.8%	170 165 97.1%	175 173 98.9%	180 158 87.8%
3	不法投棄件数 (うち市民等からの通報件数)	件	137	350(73) 351(78) 100.3%	300(66) 322(68) 107.3%	200(60) 212(49) 106.0%	137(54) 132(46) 96.4%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね各種事業に対する市民等の理解、協力をいただけていると考える。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	いずれの実績値も平成24年度から向上している。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	不法投棄件数は減っている。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.91		3.46		
平成 25 年度	2.76	0.15	3.64	0.18	
平成 27 年度	3.09	0.33	3.68	0.04	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市民の私有地への不法投棄防止対策意識の向上
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	自主防災組織の数	組織	70
2	緊急情報発信システムへの登録者数	人	8,693	10,000 9,535 95.4%	11,500 9,592 83.4%	12,500 9,763 78.1%	14,000 9,790 69.9%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	自主防災組織及び緊急情報発信システムの周知について概ね実施できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	システム登録者数は増加しているものの目標値を下回った。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	目標値を見直した上でシステム登録者数を増やす方策を考える必要がある。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.56		[安全な市民生活の確保(防災・防犯・交通安全)]
平成 25 年度	2.84	0.12	3.80	0.24	
平成 27 年度	2.92	0.08	3.81	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	災害に対する市民の意識向上をより進めていく必要がある。 また、災害への備え（備蓄品・資機材等）を常時万全にしておく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	消防団員の充足率	%	91.3
2	消防水利の充足率	%	74.2	↗ 97.7	↗ 98.0	↗ 98.1	↗ 98.2
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	消防に関するハード面については予定どおり進捗した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	消防団員数の減少傾向が見受けられる。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	消防に関するソフト面について、目標値の達成が図れなかった。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.56		安全な市民生活の確保(防災・防犯・交通安全など)
平成 25 年度	2.84	0.12	3.80	0.24	防災体制・災害対策の強化
平成 年度	2.92	0.08	3.81	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	消防団の人員確保・資機材の調達や消防水利の整備といった地域防災におけるソフト面・ハード面の充実が求められる。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	消防団員の確保方を再検討する。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	刑法犯認知件数（窃盗犯）	件	1,103	1,000	970	930	900
				875	942	778	635
				87.5%	97.1%	83.7%	70.6%
2	自主防犯団体数	団体	11	13	14	15	16
				11	11	11	11
				84.6%	78.6%	73.3%	68.8%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	防犯意識の高揚を図り、また、防犯設備等の活用により犯罪の防止に努めた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標の成果が図れた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	防犯活動及び防犯施設の整備が図れた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.56		安全な市民生活の確保（防災・防犯・交通安全など）
平成 25 年度	2.61	0.11	3.77	0.21	
平成 27 年度	2.72	0.11	3.79	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	・ 防犯組合員の高齢化
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	交通人身事故発生件数	件	360
2	放置自転車撤去台数 (禁止区域外も含む)	台	168	150 281 187.3%	140 249 177.9%	120 260 216.7%	100 165 165.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	交通ルールやマナーなど交通安全に対する意識の高揚が図れた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね交通事故の減少が図れた。放置自転車撤去台数については、撤去方式の変更に伴い今後減少に努める。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	交通安全意識の高揚が図れた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.56		安全な市民生活の確保(防災・防犯・交通安全など)
平成 25 年度	2.61	0.11	3.77	0.21	
平成 27 年度	2.72	0.11	3.79	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	千葉ニュータウンやその他地区での開発や合併による管理区域の大幅な拡大に伴い、要望件数や対応が必要な箇所数が増加している。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	消費者講座の受講者数	人	80	100	110	120	130
				56	151	78	316
				56.0%	137.3%	65.0%	243.1%
2	消費生活センター相談件数	件	201	200	200	200	200
				266	328	388	411
				133.0%	164.0%	194.0%	205.5%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	千葉県消費生活相談員の会等との連携により、消費者講座の受講増を図った。
施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	消費者講座の受講者数、消費生活センター相談件数ともに目標値を上回った。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	平成26年度から消費生活センターの開設時間が延長されたこと等により、利便性向上が図られた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記+A12事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.68		3.09		[項目名]消費者教育の推進と保護
平成 25 年度	2.61	0.07	3.77	0.68	[項目名]防犯・交通安全対策の強化
平成 年度	2.72	0.11	3.79	0.02	[項目名]防犯・交通安全対策の強化

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	今後も、相談件数の増加や相談内容の多様化、複雑化等が予想されることから、消費生活に関する情報提供や相談、講座の充実を図り、トラブルを未然に防げる賢い消費者づくりを進め、消費者被害の防止を図る必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	民生委員・児童委員の対応相談件数	件	2,327
2	福祉ボランティア登録者数	人	1,254	1,310 1,259 96.1%	1,370 1,199 87.5%	1,430 1,213 84.8%	1,500 1,196 79.7%
3	地域円卓会議設置数	地区	6	6 6 100.0%	8 6 75.0%	8 6 75.0%	8 6 75.0%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	社会福祉協議会等関係機関との連携協力により地域福祉の推進を図った
施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	地域円卓会議の実施がなかった事から目標を下回った。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.40		
平成 25 年度	2.58	0.11	3.66	0.26	
平成 27 年度	2.66	0.08	3.68	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	社会福祉協議会や、民生委員・児童委員、ボランティア、学校等と連携しながら、地域福祉活動を促進し、支え合いのネットワークの強化を図る必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	地域円卓会議の設置について見直しをしていく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	生活保護からの自立世帯数	件	7
2	年金相談の相談者数	人		80 33 41.3%	64 26 40.6%	64 34 53.1%	64 27 42.2%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	関係機関と連携が取れ、助言及び支援ができ、生活の向上が見られた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	生活の向上が見られれば目標通りの自立が見られた。 また、年金事務所に出向けない方の利便性が図られた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	計画通りに助言及び支援ができ、生活の向上が図られ自立が見られた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.71		3.23		[項目名] 低所得者福祉の充実
平成 25 年度	2.58	0.13	3.66	0.43	
平成 27 年度	2.66	0.08	3.68	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、と、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

施策評価票

取りまとめ部課名	健康福祉部 子育て支援課	施策番号	12
関係する課等	保育課 健康増進課		

基本目標	2	健康福祉		
政策	2	児童福祉・子育て		
施策		子育て支援の充実	スマイルプラン	

1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	市民が安心して子どもを出産子育てしていけるよう、多様な保育サービスの展開や良好な保育環境づくりを進めていくとともに、経済的、精神的負担の軽減など子育て家庭への適切な支援を進めていきます。
主な取り組み	<p>保育形態・施設の充実 保育時間の拡大や病児・病後児保育など保育ニーズの多様化に対応した保育サービスの提供に努めるとともに、施設の計画的な改修など良好な保育環境づくりを進めます。また、幼保一体化なども踏まえた施設の適正な配置及び運営を進めていきます。</p>
	<p>放課後児童対策の充実 共働き家庭等の小学生を対象とした学童保育について、指導員の育成・確保を図るとともに、施設の整備や改修等を計画的に実施し、児童を安全かつ健全に育成する場を確保していきます。</p>
	<p>子育て家庭への生活支援の推進 市民が安心して子育てできるよう、児童(子ども)手当の給付や中学校3年生までの医療費助成、私立幼稚園への就園に対する助成など子育て家庭の経済的な負担軽減を図ります。また、一時的に家事、育児等の支援が必要な場合などにおける生活支援サービスの充実を図ります。</p>
	<p>ひとり親家庭への生活支援の充実 生活上の悩みや不安に対するきめ細かな相談や情報提供、経済的な負担軽減を図るとともに、就業のための技術習得に関する助成などを行い、生活の自立を支援していきます。</p>

2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
保育園運営事業	保育課			A	D	D	事業拡大
印旛高校跡地幼保一体型施設整備事業	保育課			B	F	B	事業継続
認可外保育施設認可化移行支援事業	保育課			F	B	B	事業継続
保育園施設整備改修事業	保育課			B	B	B	事業継続
放課後児童健全育成事業	保育課			B	C	C	事業拡大
学童クラブ施設整備事業	保育課			B	B	B	事業継続
児童手当の給付	子育て支援課			B	B	B	事業継続
子ども医療費助成事業	子育て支援課			A	A	A	事業継続
子育てヘルプサービス事業	子育て支援課			A	C	B	事業拡大
ファミリーサポートセンター事業	子育て支援課			B	C	B	事業継続
特定不妊治療に要する経費	健康増進課			B	C	C	事業拡大
ひとり親家庭等支援事業	子育て支援課			C	C	C	事業継続

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	保育園入園保留児童数 (各年3月1日現在)	人	78	40	20	10	0
				202	276	159	182
				505.0%	1380.0%	1590.0%	#DIV/0!
2	学童保育利用児童数	人	6,681	7,014	7,182	7,308	7,821
				7,644	8,260	8,976	9,035
				109.0%	115.0%	122.8%	115.5%
3	子育てヘルプサービス利用者数	人	20	30	35	40	45
				25	19	29	31
				83.3%	54.3%	72.5%	68.9%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	C 一部見直しが必要	市広報紙やホームページ掲載等により、事業や制度の周知に努めた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	保育園入園保留者数の解消が図れなかった。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	入園保留児童が多く発生したため施策の進捗がやや下回った。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.77		3.53		[項目名] 児童福祉の充実
平成 25 年度	2.76	0.01	3.69	0.16	[項目名] 児童福祉・子育て支援体制の充実
平成 27 年度	2.80	0.04	3.73	0.04	[項目名] 児童福祉・子育て支援体制の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	保育園待機児童解消のために、千葉ニュータウン区域を中心とした新規分譲の動向を踏まえつつ、保育の受け皿の拡大を図る必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	千葉ニュータウン中央駅圏における保育の受け皿不足が特に深刻となっていることから、深刻な地域における保育園新設等について協議を進める。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	子育て支援センター利用者数	人	74,212
2	ファミリーサポート登録者数	人	309	350 443 126.6%	400 495 123.8%	450 547 121.6%	500 591 118.2%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	子育て家庭の不安や悩みの解消に向け相談体制等の充実に努めた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	利用者の定着が図られた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	利用者が増えているので更に内容の充実を図る。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.77		3.53		[項目名] 児童福祉の充実
平成 25 年度	2.76	0.01	3.69	0.16	[項目名] 児童福祉・子育て支援体制の充実
平成 27 年度	2.80	0.04	3.73	0.04	[項目名] 児童福祉・子育て支援体制の充実
<p>満足度及び重要度の算出方法 「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。</p>					

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	精神的な不安や子育てに関する悩みを抱える親が増え解消に向け情報提供など適切な支援が必要である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	老人福祉センター・ 老人憩いの家の利用者数(延べ)	人	61,428	63,000	64,500	66,000	67,500
				63,615	62,535	43,855	53,967
				101.0%	97.0%	66.4%	80.0%
2	高齢者就労支援センターにおける 講習会等への参加者数	人	59	↗	↗	↗	↗
				105	105	160	104
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	A 妥当である	高齢者の多様な分野の社会参加を推進した
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	高齢者の交流の促進や就労支援を行った
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	高齢者の生きがいづくりを推進できた

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.75		3.39		[項目名] 活力ある長寿社会の創造
平成 25 年度	2.66	0.09	3.68	0.29	[項目名] 高齢者福祉の充実
平成 27 年度	2.59	0.07	3.69	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	高齢者の確実な増加により、多様な分野の社会参加の推進が一層求められていくため、他の自治体等の事例等の内容を研究していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	要介護認定者の割合	%	13.7
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	介護予防の推進を図り、介護認定者の抑制に努めた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	今後、高齢者の増加が見込まれるため、介護予防の拡充が必要。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	高齢者が増加しているが、目標値を下回る事ができ

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.49		[項目名] 高齢者福祉の充実
平成 25 年度	2.66	0.03	3.68	0.19	[項目名] 高齢者福祉の充実
平成 27 年度	2.59	0.07	3.69	0.01	[項目名] 高齢者福祉の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	高齢者の増加は必須であり、国の動向等注視しながら事業展開が必要である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	3年毎に計画の見直しを図る。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	施設通所サービス利用者数	人	217	220	230	240	250
				192	213	231	248
				87.3%	92.6%	96.3%	99.2%
2	通所障がい者施設数	施設	6	8	9	9	10
				5	6	6	6
				62.5%	66.7%	66.7%	60.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	今後も目的を達成できるような手段を検討していく。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	各施設において、概ね目標値である。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	目的達成の手段を検討しながら、今後も継続して目標達成のために継続して事業に取り組んでいく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.75		3.40		
平成 25 年度	2.76	0.01	3.61	0.21	
平成 27 年度	2.78	0.02	3.64	0.03	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	障がい者福祉への関心が高く、満足度は低いという結果を踏まえ、今後も引き続き障がいのある人への支援の充実と、社会参加の促進へ向けての事業を継続していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

施策評価票

取りまとめ部課名	健康福祉部	健康増進課	施策番号	17
関係する課等	国保年金課	環境保全課		

基本目標	2	健康福祉		
政 策	4	健康・医療		
施 策		健康管理体制の充実	スマイルプラン	

1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	<p>疾病の予防、早期発見、適切な治療等を図るため、健康診査や母子保健対策など市民の健康を管理する体制の充実に努めていきます。また、市民の生命や健康を脅かす感染症、放射線問題等の危機管理対策として、拡大防止や適切な情報の提供に努めていきます。</p>
主な取り組み	<p>健康診査の充実 疾病を早期に発見し生活習慣の改善指導や適切な治療へと結び付けるため、39歳以下コスモス健康診査や特定健康診査、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、口腔疾患健診、骨粗鬆症検診等を実施します。また、国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者には、人間ドック等の費用助成を行い、市民の健康増進を支援します。</p>
	<p>母子保健の充実 妊婦・乳幼児健診や家庭訪問、相談事業等を充実させ、妊娠・出産期、乳幼児期の親子の適切な健康管理と出産や育児に関する不安の解消を図ります。また、出産・育児に関する正しい意識の醸成を図るため、思春期保健対策についても進めていきます。</p>
	<p>感染症予防の推進 感染症に関する知識の普及に努めるとともに、市民がインフルエンザなどの予防接種や結核などの検診を積極的に受けることを働きかけ、感染症の発生、拡大を防止します。</p>
	<p>健康危機管理対策の推進 食中毒、医薬品被害、毒物劇物被害など、市民の生命や健康を脅かす被害の発生予防と拡大防止を図ります。また、福島第一原子力発電所の事故における放射線問題については、国、県など関係機関と連携しながら必要に応じて除染等の対策を講じていくとともに、迅速な情報収集と適切な情報提供を行い、市民が安心して生活できる環境づくりを進めます。</p>

2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
健康診査事業	健康増進課			B	B	B	事業拡大
がん検診事業	健康増進課			A	B	B	事業継続
特定健診・特定保健指導	国保年金課			C	C	C	事業継続
人間ドック等受検費用補助事業	国保年金課			A	A	A	事業継続
乳幼児健診事業(母子保健事業)	健康増進課			B	B	B	事業継続
出産育児支援事業(母子保健事業)	健康増進課			B	B	B	事業継続
予防接種事業	健康増進課			B	B	B	事業継続
結核検診事業	健康増進課			A	B	B	事業継続
健康危機管理対策事業	健康増進課			B	A	A	事業継続
放射線問題対策事業	環境保全課ほか			B	F	B	事業継続

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
			29.0	31.0	33.0	34.0
1 各種がん検診の平均受診率 (肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん)	%	27.6	27.6	29.1	28.7	31.4
			95.2%	93.9%	87.0%	92.4%
			97.0	98.0	99.0	100.0
2 新生児出生数に対する 産婦訪問の割合	%	96.2	97.1	94.8	95.1	94.4
			100.1%	96.7%	96.1%	94.4%
			96.0	97.0	98.0	100.0
3 就学前における麻しん接種率	%	94.9	96.2	99.2	92.7	96
			100.2%	102.3%	94.6%	96.0%
4						

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	予防接種は、全て個別接種化し、成人の検診事業についても、集団と個別で実施するなど、検診や予防接種を受けやすい体制を整えている。また、母子保健事業では、個別の相談や訪問が育児不安解消へとつながっている。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	検診の受診率や予防接種の接種率等、年々増加傾向にある。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	全般的に、事業を円滑に推進できた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備 考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.83		3.46		[項目名]「健康」への取り組み
平成 25 年度	2.73	0.10	3.79	0.33	[項目名]健康増進・医療体制の強化
平成 27 年度	2.63	0.10	3.79	0.00	[項目名]健康増進・医療体制の強化

満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	継続して出産育児支援や健(検)診及び予防接種事業等を行い、相談支援の充実及び各種健診の受診率や予防接種の接種率の向上を図っていく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	健康づくりセンター利用者数	人	14,641	15,000	15,000	15,500	16,000
				14,733	15,902	16,161	17,455
				98.2%	106.0%	104.3%	109.1%
2	健康相談実施人数	人	1,255	1,300	1,350	1,400	1,450
				323	244	463	239
				24.8%	18.1%	33.1%	16.5%
3	歯科健康教育の実施数	回	38	48	48	50	50
				79	86	91	96
				164.6%	179.2%	182.0%	192.0%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	事業計画に基づき円滑に事業を実施できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にはほぼ目標値を達成した	事業実施方法を変更した為、健康相談についてのみ目標値を達成できなかったが、全体的にはほぼ目標を達成できた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	事業実施方法を変更した為、健康相談についてのみ目標値を達成できなかったが、全体的にはほぼ目標を達成できた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.83		3.46		[項目名]「健康」への取り組み
平成 25 年度	2.73	0.10	3.79	0.33	[項目名]健康増進・医療体制の強化
平成 27 年度	2.63	0.10	3.79	0.00	[項目名]健康増進・医療体制の強化

満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	健康づくりに関する啓発活動や各種事業を継続して推進し、市民の健康に関する意識の向上に努めていく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	医療施設数	施設	77	↗	↗	↗	↗
				72	77	77	78
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	救急医療体制を確保するとともに、かかりつけ医等を持つよう啓発を図った。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	医療施設数は、横ばいだが、市内に新たな診療所等が開業してきている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	医療機関同士の連携も図られ、市内の医療体制は、強化されてきている。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.44		3.67		[項目名] 医療体制の強化
平成 25 年度	2.73	0.29	3.79	0.12	[項目名] 健康増進・医療体制の強化
平成 27 年度	2.63	0.10	3.79	0.00	[項目名] 健康増進・医療体制の強化

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	印西地域の満足度が低いため、当該地域の医療体制の充実が課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	農振農用地面積	ha	3,100
2	遊休農地面積	ha	465	465 464 99.8%	464 461 99.4%	↓ 461	↓ 461
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	農業生産基盤の整備や鳥獣被害対策等を実施し、遊休農地の拡大防止に努めた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	担い手農家等が耕作放棄地を有効的に活用し、解消に努めた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	生産性の向上や農業経営者の経営の安定化に寄与している。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.73		3.26		地域資源を活用したふれあい農業の確立
平成 25 年度	2.73	0.00	3.45	0.19	
平成 27 年度	2.72	0.01	3.44	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	今後の施策展開の方向性 具体的な見直し内容等若い世代に農業について理解を深めてもらい、就農率を高め、遊休農地の有効的な活用を今後も推進していく。 耕作放棄地の解消と鳥獣被害対策を並行して行うことで、耕作地の環境を整える必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	深刻化していくイノシシによる農作物被害について、更なる捕獲及び防除対策が必要であるため、事業を拡大し、被害対策に取り組んでいく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	認定農業者数	経営体	41
2	農業版ハローワーク登録者数	人	96	100 108 108.0%	115 111 96.5%	118 114 96.6%	120 112 93.3%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	C 一部見直しが必要	農業研修などの一部見直しを今後行っていく必要がある。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	新たな担い手の確保に繋がっている。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	担い手の確保・育成は進んでいるが、農業研修など一部事業の見直しを行っていく必要がある。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.73		3.26		地域資源を活用したふれあい農業の確立
平成 25 年度	2.73	0.00	3.45	0.19	
平成 27 年度	2.72	0.01	3.44	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	就農後、安定した市場の確保や、経常経費の縮減等により、安定した農業運営を目指す。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	市民農園区間数（民間を含む）	区画	476
				479	497	494	427
				-	103.8%	99.4%	86.4%
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	市民農園の実施により、市民の農業に対する理解と関心が深まった。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	市民農園の利用率は年々高まっている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	農業や農産物に対する関心が向上している。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.73		3.26		地域資源を活用したふれあい農業の確立
平成 25 年度	2.73	0.00	3.45	0.19	
平成 27 年度	2.72	0.01	3.44	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	今後も地産地消の取り組みを進め、市民はもとより対外的にも積極的にPRしていく。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	農産物等販売促進事業は市補助事業としては終了させるが、事業主体である西印旛農業協同組合が継続して行っていくことにより、移動販売者等を活用し、地元産農産物の地産地消を推進していく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	松崎工業団地の利活用率	%	81.9	95.0 95.8 101%
2	千葉ニュータウン業務用施設 用地の利活用率	%	54.8	65.0 60.8 94%	70.0 66.6 95%	75.0 67.5 90%	80.0 72.1 90%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	C 一部見直しが必要	主にUR都市再生機構が誘致活動を実施してきたが、誘致に向け、UR主催の現地説明会等へ出向くなど、誘致活動をしていく。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	松崎工業団地は販売を完了。また、千葉NT業務用地については分譲が進んでいる状況である。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	まだ事業用地が残っていることから、関係機関と連携を密にしながら企業誘致に努めていく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備 考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.59		3.18		魅力ある商業業務地形成
平成 25 年度	2.54	0.05	3.49	0.31	
平成 27 年度	2.53	0.01	3.48	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	未処分地があることから、東京・成田空港を結ぶ交通軸上に位置するといった立地優位性や強固な地盤、企業需要に対応できる区画面積の確保などの強みを活かし、企業立地の促進を図っていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	商工会会員数	事業所	890.0	900	950	1,000	1,050
				898	890	906	922
				99.8%	93.7%	90.6%	87.8%
2	起業セミナー等の開催数 (参加者数)	回 (人)	5(167)	6(180)	7(180)	8(180)	10(180)
				6(364)	6(358)	10(436)	10(374)
				100.0	85.7	100.0%	100.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	目標値を下回る評価があるものの、年間を通じた活動に取り組んだ。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	セミナー等の参加者数は目標値を上回る成果となった。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	プレミアム付き商品券発行事業は、市内の消費拡大と地域経済の活性化を図ることができた。この事業を機に商工会に加入する事業所が増加した。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.59		3.18		魅力ある商業業務地形成
平成 25 年度	2.54	0.05	3.49	0.31	
平成 27 年度	2.53	0.01	3.48	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	産学官連携により「NPO法人TDUIんざい産学官推進センター」が実施している講座・セミナー等の事業について、平成30年4月に東京電機大学のキャンパスが移転される予定であることから、平成28年度中を目的に補助金の継続・廃止についての判断をしていく。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	代替事業として、商工会で実施されている創業セミナー等を拡充するなどし、起業、創業に関するニーズに支障をきたすことがないよう、引き続き対応していく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	就労支援セミナー等の開催数 (参加者数)	回 (人)	5(91)	5(100)	5(100)	6(100)	7(100)
				6(96)	6(80)	7(96)	4(62)
				120.0	120.0	116.7%	57.1%
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	求人情報の提供について目標を達成できた。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	セミナー等の開催件数は目標値を下回る結果となったが、就労支援システムについて、現在、閲覧数は増加していることから一定の成果はみられる。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	県や就労支援に携わる関係機関と十分に連携し、就労促進を図った。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備 考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.48		3.40		雇用の促進
平成 25 年度	2.32	0.16	3.53	0.13	
平成 27 年度	2.42	0.10	3.50	0.03	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	厳しい雇用状況が続いているが、求人情報の提供を行なうとともに、県や近隣自治体及び関係機関等と連携し、セミナー等を開催して就労の促進を図っていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市観光協会会員数	人	154	170	180	190	200
				138	133	131	127
				81%	74%	69%	64%
2	観光イベント実施団体数	団体	5	5	6	6	7
				10	10	10	10
				200%	167%	167%	143%
3	観光イベント等事業数	事業	10	11	13	14	15
				12	14	11	11
				109%	108%	79%	73%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	印西市観光情報館（市観光協会が運営）を拠点に、市の慣行を推進していく体制の強化及び積極的な市内観光情報の発信を行っている。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	市観光協会の会員数の確保が難しい状況である。観光イベントの実施団体及び事業数は維持をしている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	市観光協会の会員数の減少はあるが、観光情報館の運営補助による観光推進体制の強化や、マスクミへの露出が増強できた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.67		2.97		地域資源の再発見と活用
平成 25 年度	2.54	0.13	3.12	0.15	
平成 27 年度	2.56	0.02	3.15	0.03	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	当市の観光振興の主要な担い手である市観光協会の組織強化や人材育成
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	負担金の見直しなどによる組織の強化・人材育成

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	年間観光入込客数	人	907,440
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	既存の観光情報を活用し、観光サイン看板の設置や観光情報発信を行った。
施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	年間観光入込客数の目標値を上回った。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	観光資源を活用した観光サイン看板等の設置や、積極的な情報発信を行い、観光客入込客数が増加。地域振興に繋がっていると考え。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.67		2.97		地域資源の再発見と活用
平成 25 年度	2.54	0.13	3.12	0.15	
平成 27 年度	2.56	0.02	3.15	0.03	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	観光資源のブラッシュアップ及び発掘や創出
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	一人あたりの学校図書館蔵書の貸出冊数	冊	12
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	学校図書館と市立図書館の情報ネットワークの活用や学校図書館司書の配置を実施できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	児童生徒の二 づに応じた読書活動を推進し、一人あたりの学校図書館蔵書の貸出冊数が増加してきている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	今後もより良い企画を実施し、児童生徒の読書活動の推進を継続する。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備 考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.31		[項目名]個性を大切にする教育と青少年の健全育成
平成 25 年度	2.72	0.03	3.73	0.42	[項目名]学校教育の充実
平成 27 年度	2.73	0.01	3.74	0.01	[項目名]学校教育の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	読書活動推進事業において、学校図書館司書をより有効に活用する。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

施策評価票

取りまとめ部課名	教育部	指導課	施策番号	29
関係する課等	教育総務課	学務課		

基本目標	4	教育・文化		
政策	1	学校教育		
施策		活力ある学校づくり	スマイルプラン	

1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	次代を担う印西の子どもたちの確かな学力を育むため、教職員の指導力の向上を図っていくとともに、学校施設の計画的な整備や改修など良好な教育環境を確保していきます。また、子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じてきめ細かな指導や支援を行うとともに、情報化・国際化社会の中で生きる能力を育ていける活力ある学校づくりを進めていきます。
主な取り組み	学習指導の充実 研修や講座の実施など活力ある学校づくりの基礎となる教職員の指導力向上を図るとともに、時代に即した教育課題の調査・研究等を行い、子どもたちの確かな学力を育ていきます。
	一人ひとりへのきめ細かな教育支援の推進 児童・生徒や保護者、教職員の悩みを軽減し解決が図れるよう、個々のケースに応じた教育相談を行うとともに、就学援助による経済的支援や不登校の児童・生徒の居場所づくり、学校復帰支援など、きめ細かな支援を行っていきます。
	国際理解教育の推進 外国語指導助手（ALT）による英語学習や外国語活動を通して、言語や異文化への理解を深め、外国人と共生できる能力を養っていきます。
	教育の情報化推進 教科指導におけるICT活用や校務の情報化を推進し、児童・生徒の情報活用能力や情報モラルを育成するとともに、学校運営の合理化を進めていきます。
	特別支援教育の推進 特別な支援を必要とする子どもたちが必要な支援を受けながら健やかに成長、発達し、個性や能力を発揮できるよう、個別の指導計画や教育支援計画に基づいた教育支援を進めていきます。
	学校・幼稚園施設の充実 快適な教育環境の確保とともに安全性の向上や長寿命化に配慮しながら、計画的に学校施設や幼稚園施設の整備や改修を進めていきます。

2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
学習指導の充実	指導課			B	B	B	事業継続
適応指導教室事業	指導課			B	B	B	事業継続
教育相談事業	指導課			B	A	B	事業継続
就学援助事業	学務課			A	A	A	事業継続
学校問題対策指導員に要する経費	指導課			B	A	B	事業継続
国際理解教育推進事業	指導課			B	B	B	事業継続
学校教育の情報化推進事業	学務課			D	D	D	事業継続
特別支援教育事業	指導課			B	B	B	事業継続
小中学校施設整備改修事業	教育総務課			B	B	B	事業継続
21住区小学校等施設整備事業	教育総務課			B	B	B	事業完了
学校給食センター整備事業	教育総務課			B	B	B	事業継続
学校の適正規模・適正配置の推進	学務課			B	F	B	事業継続
児童用机・椅子の計画的更新	学務課			A	A	A	事業継続

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	教職員研修(夏季教職員研修)への参加率	%	74
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	計画通り研修を実施できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	教職員のニーズに応じ、活動内容は充実できた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	今後もより良い企画の実施、教職員の支援を継続する。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.31		[項目名]個性を大切にする教育と青少年の健全育成
平成 25 年度	2.72	0.03	3.73	0.42	[項目名]学校教育の充実
平成 27 年度	2.73	0.01	3.74	0.01	[項目名]学校教育の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	小学校の校舎、屋内運動場の老朽化に伴う大規模改修を計画的に進める。また、児童生徒の快適な学校生活環境のためのトイレ改修などを、できるだけ早期に行う必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	学校メール配信システムの登録率	%	72
2	学校情報の発信率	%	69	80 100 125.0%	85 100 117.6%	90 100 111.1%	90 100 111.1%
3	学校支援ボランティアの活用率	%	96	96.0 98.2 102.3%	96.3 98.4 102.2%	96.5 98.6 102.2%	96.7 98.6 102.0%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	計画通り実施できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 概ね妥当である	保護者や地域の方への協力依頼や情報発信を促進することができた。
総合評価	B 概ね妥当である	学校支援や情報提供に係る登録や活用の促進を継続して実施していく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.31		[項目名]個性を大切にす教育と青少年の健全育成
平成 25 年度	2.72	0.03	3.73	0.42	[項目名]学校教育の充実
平成 27 年度	2.73	0.01	3.74	0.01	[項目名]学校教育の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	今後さらに、家庭や地域の教育力の向上を図り、学校・家庭・地域の連携を強化していき、地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	講座等への参加者数（延べ）	人	5,176
2	公民館等利用団体数	団体	848	860 814 94.7%	860 752 87.4%	860 730 84.9%	860 712 82.8%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	各事業が目的達成のための手段として有効に機能した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	利用しやすい施設運営について、引き続き検討を行う
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	市民のニーズを的確にとらえ、生涯学習の推進を今後も継続していく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.18		[項目名] 創造性を育む生涯学習の充実
平成 25 年度	2.81	0.09	3.35	0.17	[項目名] 生涯学習の推進
平成 27 年度	2.76	0.05	3.37	0.02	[項目名] 生涯学習の推進

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	生涯学習関連施設間の連携協力。市民の学習ニーズの捉え方など。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	生涯学習ガイド等の情報提供についての検討。市民ニーズの把握に努め、地域課題解決に向けた取り組み等を強化していく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	図書館利用登録者数	人	29,213
2	市民一人あたり貸出点数 (視聴覚資料を含む)	点	9.5	10.0 10.0 100.0%	10.0 9.2 91.6%	10.0 8.9 89.0%	11.0 8.7 79.1%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	各事業が概ね有効に機能した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標に達した。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	概ね生涯学習体制の充実が図れた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.72		3.18		[項目名] 創造性を育む生涯学習の充実
平成 25 年度	2.81	0.09	3.35	0.17	[項目名] 生涯学習の推進
平成 27 年度	2.76	0.05	3.37	0.02	[項目名] 生涯学習の推進

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	高等教育機関等との連携事業の検討。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	こども110番協力家庭・事業者数	件	1,554	1,565 1,517 96.9%
2	家庭教育学級修了者数	人	587	590 496 84.1%	590 513 86.9%	595 478 80.3%	600 514 85.7%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	110番の家についてはPTAを通じた協力呼びかけ、家庭教育学級は講座内容の工夫などにより、目的達成に向けた取り組みがある程度できた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	上記の取り組みにより、目標に近い成果を残すことができた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	全体としては、概ね計画通りである。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.69		3.31		[項目名]個性を大切にする教育と青少年の健全育成
平成 25 年度	2.81	0.12	3.35	0.04	[項目名]生涯学習の推進
平成 27 年度	2.76	0.05	3.37	0.02	[項目名]生涯学習の推進

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	少子化による家庭教育学級数及び学級生減少、地域の高齢化に伴う「110番の家」事業協力への影響
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市民スポーツ大会参加者数	人	5,686	6,000	6,500	6,800	7,000
				7,812	8,601	8,947	8,248
				130.2%	132.3%	131.6%	117.8%
2	スポーツ団体（体育協会・ スポーツ少年団）加入者数	人	4,223	4,300	4,500	4,800	5,000
				4,011	3,845	3,746	3,747
				93.3%	85.4%	78.0%	74.9%
3	スポーツ施設利用者数	人	306,828	310,000	330,000	340,000	350,000
				298,010	294,194	354,216	413,822
				96.1%	89.1%	104.2%	118.2%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	いずれの事業もほぼ計画通りの事業実績・成果であったため。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	市民スポーツ大会参加者数及びスポーツ施設利用者数が目標を上回ったため。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通りの成果を達成することができたため。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.78		3.04		[項目名]活力を生むスポーツの推進
平成 25 年度	2.81	0.03	3.32	0.28	[項目名]スポーツの振興
平成 27 年度	2.83	0.02	3.30	0.02	[項目名]スポーツの振興

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	活動の周知や施設の利用促進を図り、多様な施設の充実及びイベントの開催。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	スポーツ指導者数	人	166	170	180	190	200
				168	162	160	171
				98.8%	90.0%	84.2%	85.5%
2	総合型地域スポーツクラブの設立数	団体	1	1	1	1	2
				1	1	1	1
				100.0%	100.0%	100.0%	50.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	D 全面的な見直しが必要	活動実績・成果ともに計画を下回るため。
施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	スポーツ指導者数はほぼ目標値に達したが、総合型地域スポーツクラブの設立は目標値達成に至らなかったため。
総合評価	D 施策の進捗が計画よりも大きく下回る	実施事業の総合評価・施策の成果目標ともに目標に達しなかったため。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.78		3.04		[項目名] 活力を生むスポーツの推進
平成 25 年度	2.81	0.03	3.32	0.28	[項目名] スポーツの振興
平成 27 年度	2.83	0.02	3.30	0.02	[項目名] スポーツの振興

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	実情を把握し、取組等について検討する。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	関係団体等と連携・協力を図り、実情に即した支援を行う。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	文化活動団体(芸術文化協会加入)数	団体	14	14
			13	13	13	13	
			92.9%	92.9%	93%	87%	
2	文化ホール主催事業への 来客率(事業数)	% (事業)	69(11)	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)
			66(11)	71(11)	58(13)	66(12)	
			82.5%	88.8%	73%	83%	
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	活動実績は概ね計画通り実施でき、成果面については計画を上回ったため。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標を達成したため。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通りの成果を達成することができたため。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.75		3.06		[項目名] 魅力ある地域文化の創造と文化財の保護
平成 25 年度	2.73	0.02	3.27	0.21	[項目名] 文化・芸術の保護・振興
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	0.05	[項目名] 文化・芸術の保護・振興

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	文化・芸術分野は豊かな心や、地域に対する愛着心を醸成する大切な事業である。更に市民が芸術文化に興味関心を示し、他分野との交流の推進、次世代の育成が今後の課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	指定文化財件数	件	47
2	歴史民俗資料館への来館数	人	1,424	1,750 903 51.6%	1,850 1,133 61.2%	1,950 1,095 56.2%	2,050 1,032 50.3%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	企画展・各講座等を予定どおり実施した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	来館者数が減少している傾向である。収蔵資料数は増加している。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	来館者の増加を図るため、資料の活用などを考えていきたい。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.75		3.06		[項目名] 魅力ある地域文化の創造と文化財の保護
平成 25 年度	2.73	0.02	3.27	0.21	[項目名] 文化・芸術の保護・振興
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	0.05	[項目名] 文化・芸術の保護・振興

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	現状で分散している歴史的資料について、保管の集約化に努め、有効に活用できるように検討していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市史刊行物の発行数	冊	44	46	47	48	50
				50	51	52	54
				108.7%	108.5%	108.3%	108.0%
2	市史講座の受講者数(累計)	人	-	80	160	240	320
				252	286	347	397
				315.0%	178.8%	144.6%	124.1%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.75		3.06		[項目名] 魅力ある地域文化の創造と文化財の保護
平成 25 年度	2.73	0.02	3.27	0.21	[項目名] 文化・芸術の保護・振興
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	0.05	[項目名] 文化・芸術の保護・振興

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	木下交流の杜歴史資料センターの開設により、地域史料の保存・管理、活用に進捗がみられたが、これからも継続的に事業を進めるには地域史料の保存・管理体制の確立が課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	国際交流ボランティア数	人	79	82	85	88	90
				84	86	86	86
				102.4%	101.2%	97.7%	95.6%
2	国際交流関係行事への参加者数	人	418	453	488	523	550
				307	333	738	857
				67.8%	68.2%	141.1%	155.8%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	C 一部見直しが必要	異文化理解講座の開催数には限度があり、参加者も減少傾向であるため。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	国際交流協会主催の交流事業等は、新たな取り組みも生まれ、参加者増につながっているため。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	成果目標は概ね目標を達成しているものの、手段に対する評価がやや低い。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.74		3.06		【世界と共に歩む地域社会の実現】
平成 25 年度	2.71	0.03	3.30	0.24	【国際交流・異文化理解の推進】
平成 27 年度	2.70	0.01	3.32	0.02	【国際交流・異文化理解の推進】

満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	満足度は平均であるが、重要度は平均を下回っており、それが講座等の参加者の伸び悩みにつながっている面もあると思われる。講座や交流イベントの充実には、国際交流協会を中心とした人的資源の充実が欠かせないが、そこが弱い部分である。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	異文化理解講座については、参加者数が減少傾向であるため、講師やテーマについて工夫していく。一方で、国際交流協会主催の交流事業等は、新たな企画展開により参加者が増えており、多文化共生の推進に貢献するものであることから、一層の充実に向け、連携を図っていく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	異文化講座への参加者数	人	687
2	外国人向けサービス数 (英語版広報紙の発行等)	件	3	3 7 233.3%	4 9 225.0%	4 9 225.0%	5 9 180.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	C 一部見直しが必要	異文化理解講座の開催数には限度があり、参加者も減少傾向であるため。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	広報紙英語版やホームページの多言語化など、外国人向けサービス数は目標値を上回ることができたため。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	成果目標は概ね目標を達成しているものの、手段に対する評価がやや低い。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.74		3.06		世界と共に歩む地域社会の実現
平成 25 年度	2.71	0.03	3.30	0.24	国際交流・異文化理解の推進
平成 27 年度	2.70	0.01	3.32	0.02	国際交流・異文化理解の推進

満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	満足度は平均であるが、重要度は平均を下回っており、それが講座等の参加者の伸び悩みにつながっている面もあると思われる。講座や交流イベントの充実には、国際交流協会を中心とした人的資源の充実が欠かせないが、そこが弱い部分である。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	異文化理解講座については、参加者数が減少傾向であるため、講師やテーマについて工夫していく。一方で、国際交流協会主催の交流事業等は、新たな企画展開により参加者が増えており、多文化共生の推進に貢献するものであることから、一層の充実に向け、連携を図っていく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	千葉ニュータウン事業の宅地処分率	%	62.5	70.0	75.0	80.0	85.0
				67.6	71.6	75.7	81.1
				96.6%	95.5%	94.6%	95.4%
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	印旛中央地区区画整理事業については、区画整理以外の手法検討も視野に入れ、事業を総体的に精査する。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.51		3.33		[項目名] 土地利用計画・圏域の有機的結合
平成 25 年度	2.20	0.31	3.54	0.21	[項目名] 土地の有効利用・都市機能の強化
平成 27 年度	2.17	0.03	3.59	0.05	[項目名] 土地の有効利用・都市機能の強化

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	千葉ニュータウン地域については、平成25年度をもって、新住宅市街地開発事業の事業期間を終えたが、事業収束後においても事業効果を維持増進させていく必要がある。 印旛中央地区区画整理事業については、区画整理以外の手法検討も視野に入れ、事業を総体的に精査する。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	印旛中央地区区画整理事業については、区画整理以外の手法検討も視野に入れ、事業を総体的に精査する。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	木下駅周辺施設整備の進捗率 (事業費ベース)	%	91.5				100.0
				97.3%	100%	100%	100%
2	小林駅周辺施設整備の進捗率 (事業費ベース)	%	1.7				100.0
				1.7%	8.9%	32.2%	79.6%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	都市機能強化に向け駅舎、広場等の施設面の整備、市民との合意形成を図っている。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	木下駅北口交通広場及び小林駅舎については整備を完了し、小林駅南口駅前広場の工事を進めている。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	やや進捗に遅れがあるが、順調に進んでいる部分もある。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.51		3.33		[項目名] 土地利用計画・圏域の有機的結合
平成 25 年度	2.20	0.31	3.54	0.21	[項目名] 土地の有効利用・都市機能の強化
平成 27 年度	2.17	0.03	3.59	0.05	[項目名] 土地の有効利用・都市機能の強化

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	都市機能の向上を図るため、駅周辺を中心に事業を推進していく必要がある。 関係権利者の合意形成を図っていく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

施策評価票

取りまとめ部課名	都市建設部	建設課	施策番号	43
関係する課等	土木管理課	都市計画課		

基本目標	5	都市基盤		
政策	2	道路・公共交通		
施策		道路網の整備・充実	スマイルプラン	-

1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。
主な取り組み	<p>広域・主要幹線道路の整備促進</p> <p>市中央部の主要交通軸である北千葉道路(国道464号)をはじめ、主要地方道千葉竜ヶ崎線((仮称)コスモス通り)、鎌ヶ谷本埜線バイパス、一般県道八千代宗像線、印西印旛線の早期整備を促進していくとともに、千葉柏道路や主要地方道船橋印西線、(仮称)若草大橋延伸線の早期事業化についても関係機関に要望を行っていきます。</p>
	<p>地区幹線道路・生活道路の整備</p> <p>地区幹線道路である印西牧の原駅圏と小林駅圏を結ぶ市道00-031号線や物木・滝線の整備を進めます。また、市道00-116号線、市道00-026号線延伸区間、松崎・吉田線、安食ト杭中田切線、笠神中田切線、千葉ニュータウン21住区街区内の道路等の整備を進め、地域内交通の円滑化と生活環境の向上を図ります。</p>
	<p>道路の適切な維持管理の推進</p> <p>既設の道路や橋梁などの状況を的確に把握しながら、計画的な修繕・補修等を実施し、安全で快適な道路環境を確保していきます。</p>

2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
北千葉道路建設促進	建設課			B	F	B	事業継続
国道464号掘割部道路整備の促進	都市計画課			A	B	B	事業完了
21住区道路整備事業	都市計画課			B	B	B	事業完了
市道00-031号線整備事業	建設課			B	C	C	事業継続
市道00-116号線整備事業	建設課			B	D	D	事業継続
市道00-026号線延伸区間道路整備事業	建設課			B	C	C	事業継続
松崎・吉田線整備事業	建設課			C	C	C	事業継続
安食ト杭中田切線整備事業	建設課			B	B	B	事業完了
竜腹寺線整備事業	建設課			B	D	D	事業継続
市道00-107号線整備事業	建設課			B	F	B	事業継続
市道物木・滝線整備事業	建設課			B	B	B	事業完了
道路維持管理事業	土木管理課			A	F	B	事業継続
雨水排水整備事業	土木管理課			D	D	D	事業継続
橋りょう長寿命化修繕事業	土木管理課			B	B	B	事業継続

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
	都市計画道路の整備率	%	59.2	60.0	61.0	62.0	63.0
				70.3	70.3	75.0	77.3
				117.2%	115.2%	120.9%	122.7%
2	市道舗装率	%	73.3	73.7	74.1	74.5	75.0
				73.7	72.3	72.5	72.9
				100.0%	97.6%	97.3%	97.2%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	特に道路の維持において、道路が原因となる事故を未然に防ぐことができた。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	主要道路の整備により、生活の利便性は向上していると考えます。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	財源確保、用地協力等事業推進に支障となる問題にどのように取り組むかが、課題である。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	1.91		3.68		[項目名] 交通（鉄道・バス・道路など）
平成 25 年度	2.54	0.63	3.59	0.09	
平成 27 年度	2.56	0.02	3.63	0.04	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	国からの補助金等が縮減されている昨今の情勢において、事業費の財源確保が非常に難しく、効果的な事業執行のために、整備計画を精査する必要性が生じてきている。また、道路関連の要望が多数あるなかで、効率的な維持管理に努めていく必要がある。このような状況を踏まえ、更なる道路の安全と利便性の向上を図る。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	コミュニティバス利用者数	人	154,306	↗	↗	↗	↗
				225,032	224,171	223,694	238,356
				146%	100%	145.0%	154.5%
2	市内駅の1日あたりの乗降客数	人	27,827	↗	↗	↗	↗
				54,751	46,717	45,193	45,843
				197%	85%	162%	165%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	小林駅南口駅前広場整備事業の進捗にやや遅れがあるものの、ほぼ計画通りの事業実績・成果であったため。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	コミュニティバス利用者、市内駅の1日あたりの乗降客数も計画策定時より増加しているため。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通りに達成することができたため。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	1.91		3.68		交通（鉄道・バス・道路など）
平成 25 年度	1.78	0.13	3.79	0.11	公共交通の充実
平成 27 年度	1.64	0.14	3.79	0.00	公共交通の充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	計画策定時に比べ、コミュニティバス利用者数及び鉄道利用者数ともに増加しているものの、高齢化の進展に伴い、交通不便地域の解消や高齢者の外出支援等の課題が生じている。このような状況を踏まえ、更なる利便性向上と利用者数の増に向けて事業を推進し、公共交通の充実を図る。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的に見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27			
			1	下水道整備率	%	80.9	85.0	87.3	87.4
2	市営水道の普及率	%	68.3	69.6	69.5	67.8	71.5	69.0	96.5%
3									
4									

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通りに下水道施設の整備が完了した。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	公共下水道の整備率が向上した。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	公共下水道の整備・普及促進を推進することができた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.85		3.43		[項目名] 快適な生活環境の整備(上下水道の整備など)
平成 25 年度	3.07	0.22	3.72	0.29	[項目名] 上下水道の整備
平成 27 年度	3.17	0.10	3.76	0.04	[項目名] 上下水道の整備

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	生活環境の向上、市街地の浸水防除の為、計画的に公共下水道の整備を推進していく
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	景観基礎調査	%	-				100
							100
							1
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	A 妥当である	
施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	景観基礎調査を実施

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.85		3.43		[項目名] 快適な生活環境の整備
平成 25 年度	2.77	0.08	3.45	0.02	[項目名] 都市景観づくり
平成 27 年度	2.88	0.11	3.41	0.04	[項目名] 都市景観づくり

満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	平成27年度は市内全域の景観に関する基礎調査を実施し、その結果をもって28年度に印西市の景観施策をどのようにしていくかを位置付ける「景観基本計画」を作成する。その後景観法に基づく「景観計画」、「景観条例」を策定していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	住宅耐震化率	%	81.8
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	市広報紙への掲載、行政配布による回覧等により、事業や制度の周知に努めた
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	耐震改修促進事業、耐震相談会事業で目標値を下回ったものの、市内の建て替えや新築等の需要が高まり耐震化率目標は達した
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	予算上での未達はあったものの、概ね計画通りに施策を推進できた

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.85		3.43		[項目名] 快適な生活環境の整備
平成 25 年度	2.77	0.08	3.53	0.10	
平成 27 年度	2.89	0.12	3.52	0.01	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	国や地方の財政が悪化する中、必要な施策を適切に推進していくためには、居住ニーズを踏まえた啓発事業等のソフト面を充実するとともに、適切な予算範囲内での直接補助事業などを実施して施策展開を推進していく必要がある
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	審議会等における公募委員の割合	%	11	15	20	25	30
				17.0	19.0	18.7	16.9
				113%	95%	74.8%	56.3%
2	制度普及に向けた講演会等の開催回数	回	1	2	2	3	3
				1	1	1	0
				50%	50%	33.3%	0.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	A 妥当である	市民参加推進事業の活動指標、成果指標についてはほとんど目標を達成している。
施策の成果目標達成状況に対する評価	D 全体的に目標値を大きく下回る	施策の成果指標が、事業評価の中で唯一目標を下回るものであったこともあるが、公募委員の割合が前年度を下回ってしまった。
総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	実施計画事業の評価は上向きであるものの、成果指標の一部は達成率が下がってしまった。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.67		3.14		市民とのパートナーシップの構築
平成 25 年度	2.54	0.13	3.41	0.27	
平成 27 年度	2.50	0.04	3.43	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	満足度、重要度ともに平均を下回っており、市民参加に対する意識を高める難しさがあるものの、市民意見公募や審議会等の傍聴者など、増加している面もあるので、中長期的に取り組んで全体的に成果をあげていかなければならない。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	成果指標の中でも、市民意見公募(パブリックコメント)の意見提出件数や、審議会等の女性委員割合は増加している。一方で、審議会等の公募委員の割合はこれまで増加傾向であったが、今回は前年度を下回ったことから、他市町村の取り組み等を研究していく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市政ポストへの意見数	件	159	157	155	152	150
				217	165	187	131
				138%	106%	123.0%	87.3%
2	市政情報の公表・提供数	件	552	570	580	590	600
				860	888	968	1,044
				151%	153%	164.1%	174.0%
3	市ホームページアクセス数 (トップページ)	件	(H21) 397,670	420,000	440,000	460,000	480,000
				618,041	615,709	739,479	785,699
				147%	140%	160.8%	163.7%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	各事業が目的達成のための手段として、概ね有効に機能した
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	各指標項目が目標値を上回ることができた
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	多様な媒体を活かした市政情報の提供が行え

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.67		3.14		[項目名] 市民とのパートナーシップの構築
平成 25 年度	2.84	0.17	3.54	0.40	[項目名] 市政情報の公開・提供
平成 27 年度	2.86	0.02	3.52	0.02	[項目名] 市政情報の公開・提供

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市政情報の共有化を推進するため更に多面的な情報提供の手段を検討するとともに、各取り組みの活用促進を図るためPR等に努めていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目	単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27	
			1	町内会等加入率	%	67.4	69.0 67.0 97.1%
2	コミュニティセンター利用者数	人	98,644	99,000 104,424 105.5%	99,000 102,294 103.3%	99,000 105,473 106.5%	99,000 105,989 107.1%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	市民相互の交流、イベント等により地域コミュニティ形成の推進を図り、各地域社会における住民自治の振興を図り、町内会等の育成を図った。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	町内会加入率向上を図るため、市政学習会や情報交換会等を実施し町内会等の魅力向上を図った。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	市民主導型のイベント構築を促進できた。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.74		3.06		[項目名]ふれあいコミュニティの形成
平成 25 年度	2.84	0.10	3.31	0.25	[項目名]地域コミュニティ活動の推進
平成 27 年度	2.83	0.01	3.31	0.00	[項目名]地域コミュニティ活動の推進

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	町内会等へ加入への減少が課題である。コミュニティ施設の老朽化が進んでいる。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	市民活動支援センター登録団体数	団体	72	74	75	76	77
				82	95	99	107
				111%	127%	130.3%	139.0%
2	市民等との協働事業数	件	47	51	54	57	60
				60	63	67	73
				118%	117%	117.5%	121.7%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	A 妥当である	市民活動、市民協働事業の推進を図る事業展開により、市民活動の支援策として一定の成果を得られたと評価できる。
施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	目標値を達成した。市民活動推進委員会等とともに施策を検討し、今後も市民活動の推進・活性化を図っていく。
総合評価	A 計画以上に施策を推進できた	目標値を上回っている。現行の事業体系で市民活動の推進を図っていく。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.66		2.89		[項目名] 協同型社会の実現
平成 25 年度	2.77	0.11	3.17	0.28	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり
平成 27 年度	2.76	0.01	3.22	0.05	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	公共サービスの担い手となるNPO・市民活動団体を育成する仕組みの構築。市民・市職員の協働意識の啓発。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	審議会等における女性委員の割合	%	27.4
2							
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	男女共同参画の推進事業の活動指標、成果指標については概ね目標を達成している。
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	一人ひとりの人権と多様な生き方の尊重、多様な生き方を支える社会環境の整備、安全安心のまちづくりを重点目標とし事業を実施した。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	施策の推進に向け、今後も事業を継続する。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.74		2.96		
平成 25 年度	2.77	0.03	3.17	0.21	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり
平成 27 年度	2.76	0.01	3.22	0.05	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	多様な視点からの啓発を進めていく必要がある
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
具体的な見直し内容等	

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	事業所・教育機関と連携して 行った取り組み数	件	7	8	9	10	12
				11	13	13	24
				138%	144%	130.0%	200.0%
2	懇話会での連携事業件数	件	0	1	2	3	5
				0	0	0	2
				0%	0%	0.0%	40.0%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	C 一部見直しが必要	活動指標が懇話会に偏っているが、連携のあり方は流動的なため、活動形態を見直していく必要がある。
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	懇話会の提案事業を実施でき、また、市内郵便局との連携事業も新たに加わり、取り組み数が増えた。
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	連携のあり方や進め方は変化しているが、産学官での多様な連携の取り組みは増えている。

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.74		2.96		
平成 25 年度	2.77	0.03	3.17	0.21	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり
平成 27 年度	2.76	0.01	3.22	0.05	[項目名] 市民活動支援・パートナーシップづくり

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	重要度が年々上昇していることから、現状平均以上である満足度が下がらないようにしていく必要がある。また、産学官の多様な機関が関係するものであることから、懇話会のような固定化された組織運営で全ての利害が一致することは難しい。一方で、連携の進め方やあり方は流動的であり、個別のニーズに合った形態での連携は増えている。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	産学官の連携の取り組みは年々増えていることから、事業を推進する手法として、懇話会の運営にこだわらず、個別の協定締結など、各機関のニーズに合った活動形態を取りながら、市民サービス向上や地域活性化等につながるよう、連携を推進していく。

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
1	休日窓口での対応数(来客者数)	人	3,191	3,400	3,600	3,800	4,000
				4,167	4,274	4,343	4,648
				123%	119%	114%	116%
2	新オペレーティングシステムへの 対応(パソコン入替)	%	0.0	25.0	50.0	70.0	100.0
				40	100	100	100
				160%	200%	143%	100%
3							
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	
施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備 考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 年度					
平成 25 年度	2.86	2.86	3.59	3.59	[項目名] 市民サービスの充実
平成 27 年度	2.86	0.00	3.61	0.02	[項目名] 市民サービスの充実

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	休日における窓口の開庁については、現状サービスの向上となっているが、住民票等のコンビニ交付が開始される場合、効率的・効果的な窓口をどう行っていくかが今後の課題となると思われる。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	市民サービスの充実を図るため、マイナンバーカードを利用した住民票等のコンビニ交付を実施する。それにより、今後の休日開庁について見直しを検討していく。

施策評価票

取りまとめ部課名	総務部	行政管理課	施策番号	55
関係する課等	総務課	企画政策課	財政課	

基本目標	6	住民自治・協働・行財政		
政策	3	行財政		
施策		効率的・効果的な行財政運営	スマイルプラン	-

1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	行政改革大綱により、事務事業の見直し、職員の定員管理の適正化、公共施設の整理統合などの行政改革を推進し、自立した基礎自治体として総合的かつ専門的な行政機能の強化を図っていきます。
主な取り組み	<p>事務事業の合理化 多様化、複雑化する市民ニーズに柔軟かつ効率的に対応できるよう、事務事業の再編・整理や民間委託の推進、公共施設の整理統合など業務や施設の合理化を進めます。</p>
	<p>定員管理の適正化と職員の育成 定員管理計画により職員数の計画的な抑制を図るとともに、社会情勢の変化や様々な行政課題に的確に対応できる職員の育成と適材適所の人事配置等を行うことにより機能的な組織体制を構築していきます。</p>
	<p>健全で安定的な財政運営の推進 中長期的な視点に立った計画的で安定的な財政運営を進めていくため、市税等の徴収対策などにより自主財源を確保していくとともに、職員、公共施設、財源等をより効率的かつ効果的に活用し、歳出経費の抑制に努めていきます。</p>
	<p>広域連携の推進 行政区域を超えた広域的な行政課題に対して、効率的・効果的な解決が図れるよう、関係自治体との連携を推進していきます。</p>

2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
事務事業の再編・整理	行政管理課			C	C	C	事業を見直す
公共施設の整理統合と有効利用	行政管理課			B	F	B	事業継続
行政評価推進事業	企画政策課			B	B	B	事業継続
定員管理の適正化	総務課			C	C	C	事業継続
職員能力の向上	総務課			B	B	B	事業継続
計画的な財政運営	財政課			B	B	B	事業継続
広域的連携体制の強化	企画政策課			B	B	B	事業継続
近隣自治体とのまちづくり連携	企画政策課			B	B	B	事業継続
第2次基本計画の策定	企画政策課			B	B	B	事業完了
まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定	企画政策課			B	F	B	事業完了

3. 施策の成果目標（上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率）

指標項目		単位	基本計画 現状値（H22）	H24	H25	H26	H27
				1	職員数	人	703
2	経常収支比率	%	90.2	90.0 89.9 100%	90.0 88.1 97.9%	90.0 86.1 95.7%	90.0 0.0%
3	実質公債費比率	%	11.7	10.0 9.9 99.0%	10.0 9.2 92.0%	10.0 8.0 80.0%	10.0 0.0%
4							

4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由（評価に対する特記事項）
施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	
施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	
総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	

5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

調査年度	調査結果（左欄:ポイント 右欄:前回比較）				備考（調査結果に関する特記事項）
	満足度		重要度		
平成 22 年度	2.54		3.43		【計画的・効率的な財政運営】
平成 25 年度	2.37	0.17	3.66	0.23	
平成 27 年度	2.47	0.10	3.64	0.02	

満足度及び重要度の算出方法
「満足(重要)」...4点、「やや満足(やや重要)」...3点、「やや不満(あまり重要でない)」...2点、「不満(重要でない)」...1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市政を取り巻く環境は少子高齢化の進展、合併に伴う普通交付税の特例措置が平成27年度から段階的に縮減されるなど歳入は減額となり、歳出では、高齢化の進展や福祉ニーズの増大など扶助費増加が重い負担となることが見込まれることから、行政改革大綱に基づく各種取り組みを実施し、持続可能な財政運営を行う必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
具体的な見直し内容等	今後は、事務事業の見直しを行い、民間委託や指定管理者制度の導入を促進することにより、サービスの向上及び経費の削減を図る。